

## 防衛庁長官挨拶

只今、ご紹介にあずかりました瓦力でございます。

このたび、1988年にその職を辞して以来、再び防衛庁長官を拝命することとなりました。冷戦構造が崩壊するなど、内外の諸情勢は当時とは大きく変化しており、国際社会における我が国の役割、防衛庁・自衛隊の役割も変化してきております。

私は、防衛庁長官として、21世紀を迎える日本の平和と安全の確保のみならず、国際社会のよりいっそうの安定化のために、与えられた職責をしっかりと果たしてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

私は、当時から、防衛研究交流を大きく推進してまいりました。本日、第2回目の安全保障国際シンポジウムが開催されるに当たり、そのような私の考え方の一端をお話させていただきたいと思っております。

話は、11年前に遡ります。当時はいまだ冷戦構造の真っ只中でありました。防衛庁長官を拝命した私は、そのような国際情勢の中にあっても、日本の防衛政策に関心の深い諸国、特に東南アジアの国々に、我が国の防衛政策をよく理解してもらうことが極めて重要であると考え、防衛関係者との人的交流を積極的に推進すべきことを決意し、防衛当局者間の人的交流のさきがけとして、東南アジア諸国との防衛研究交流を開始いたしました。

幸い、東南アジア諸国との防衛研究交流は昨年10周年を迎え、その間、実りあるものに大きく成長してきており、誠に喜ばしいものと考えておりますが、防衛関係者との対話はこの交流に限ることなく、さまざまな分野で行われることが極めて重要と考えております。

そのような観点からみた場合、本日開催される安全保障国際シンポジウムは防衛研究交流として大きな意義を有していると思っております。

その第一点は、本日のシンポジウムにイギリス、アメリカ、ロシア、中国、オーストラリアの著名な先生方の参加あるいは寄稿を得て、公開でシンポジウムを開催することです。

これらの国々は、言うまでもなく、20世紀の国際政治において大きな役割を果

たしてきた国々であり、また21世紀においても国際社会に大きな影響を与える国々であります。このような主要国の方々が一堂に会して防衛研究交流を公開で行うことは10数年前には想像できなかったことであります。

第二点は、今回のシンポジウムのテーマであります。

今回のテーマは「21世紀の戦争と平和 20世紀を振り返って」ですが、20世紀の国際政治で大きな役割を果たしてきた各国の研究者が、20世紀の戦争とはどのようなものであったかを回顧しつつ、21世紀の戦争と平和がどのようなものになるかを考察するということは極めて大きな意義があると考えます。私としては、新たなミレニアム、そして新たな世紀の到来を前にして誠に時宜に適ったテーマだと思います。

このシンポジウムは、学術的な立場からの報告発表や意見交換が中心になりますが、それだけに研究者同士の冷静かつ忌憚のない意見交換の中で、創造的なアイデアが出ればと期待しています。そして、本日お見えになられた皆さまをはじめ関係者の間での議論が深まり、我が国も含めた世界の安全保障についてのコンセンサス作りにつながることができれば、防衛研究交流を推進してきた私としては望外の喜びであります。

本シンポジウムの実り多い成果を心より祈って私の挨拶とさせていただきます。

平成 11 年 10 月 7 日

防衛庁長官

瓦 力